

板橋区議会報告における質疑概要について

資料 5-2

令和 7 年 4 月 16 日に実施した板橋区議会（企画総務委員会）報告の質疑概要（審議会に関する質疑抜粋）を以下のとおり報告する。

No.	項目	質疑の要旨	答弁の要旨
1	全般 （区民参画）	基本構想のめざす姿において、「子ども・若者・子育て世代が住みたく なるまち」とあるが、「若者」の具体的な年代層はどのように定義して いるのか。また、高校生から 20 代の若者向けの施策は今まで少なかっ たと感じる。若年層の定住化を図るためにも、若者世代の意見をどのよ うに取り入れていくのか。例えば、デジタル技術を活用した意見収集の 方針はあるか。	若者のターゲットは、中高生から 20 代くらいまでの方を想定している。 昨年度は子どもワークショップ（小学生～高校生）や大学生ワークショッ プを実施するとともに、小・中学生向けのアンケートも行った。デジタル 技術を活用した方法についても、様々な手法を検討し、可能な方法での導 入を進めていきたい。
2	全般 （区民参画）	小・中学生に対してはアンケート等で意見聴取しやすいが、高校生以上 は区との接点が減る。例えば、都立高校等と連携して高校生の意見を取り 入れる仕組みについて、何か考えていることはあるか。	高校生の意見を広く取ることは難しい面があるが、子どもワークショップ では小・中・高校生とカテゴリを分けて意見をいただいた。 高校生世代には SNS を活用したアプローチが有効と考えており、都立高校 との連携や i-youth との連携など、様々な視点から意見を取り入れる仕組 みについて、今後工夫していきたい。
3	全般 （区民参画）	区民検討会に参加した人たちに、その結果が基本構想等にどのように 反映されたかフィードバックする仕組みになっているのか。	区民検討会の参加者には区民検討会報告書を一度フィードバックしており、 今般、中間答申がまとまったことについてもメール等で周知している。 今後も節目ごとにアナウンスしながら進めていく。
4	全般 （策定過程）	様々なカテゴリの委員が参加し、中間答申がまとめられていく過程に おいて、審議会での意見と行政としての意見が食い違った点はあった か。その場合どのように調整するのか。	審議会での議論に向け、区は現在の基本構想・基本計画の進捗状況や国・ 都の動向を踏まえた現況・課題・方向性を整理して、資料案を示している。 実現が難しい部分については審議会で説明し内容を調整しており、出され た意見の中で、基本構想ではなく基本計画や実施計画に位置づけられる内 容の場合は、今後整理して可能な限り反映していく。
5	全般 （計画期間）	基本構想は今後 10 年間の計画だが、区長は 4 年ごとに選挙がある。こ の 10 年という構想と区長の考え方との位置づけはどうなっているの か。	基本構想は区政の長期的な指針であり、区だけでなく区民や関係者全ての 共通目標であるため、特定の区長に縛られるものではない。その上で区と しての方針は、基本構想を実現するための基本計画・実施計画の中で表し ていく。自治体によっては 20～30 年の基本構想を設定しているところも あり、そちらも基本計画等で区としての取組を打ち出している。

6	全般 (計画期間)	「おおむね 10 年後を見据えた」とある一方で「予測困難な時代」とも表現されている。予測困難な時代にどれくらい予測できるのか、また 10 年というスパンの根拠は何か。	社会動向は複雑化しているが、基本構想の大枠はおおむね 10 年が適切で変わらないと考えている。ただし、時代の変化によってアプローチの仕方は変わるため、区が定める基本計画は必ずしも 10 年でなくてもよく、情勢を見極めて基本計画等・実施計画を見直していくことも考えている。
7	全般 (区独自性)	基本構想は総花的にならざるを得ないと思うが、板橋区ならではの構想はあるのか。 将来像に「緑と文化のかがやくまち板橋」とあるが、特に文化と環境の分野が今後 10 年で重要になると思う。今後の展開について所感はあるか。	「緑と文化」は昭和 59 年の基本構想から継承されており、板橋を象徴するものと考えている。緑については単に自然環境を増やすだけでなく、地域ごとにある緑をつなげていくことで住みよいまちづくりやにぎわいの創出につなげていきたい。基本計画等では「今ある緑をつなぐ」という視点を強く打ち出していき、区の文化とともに表現していきたい。
8	全般 (組織横断的)	「組織横断的」という言葉が出てくるが、実際の整理としては、めざす姿・施策のあり方が分野別になっているが、審議会ではどのような意見があったのか。 また、区として課題を抽出し、分野横断的な課題に対して、きちんと総合的に対応して欲しいと考えるが、区は組織横断的体制の強化の手法についてはどのように想定しているか。	審議会では、複雑・多様化する課題解決に向けては、分野別の考え方では難しく、分野を越えた連携が重要という意見が強く出ている。 区も同様の理解ではあるが、区民等に示す際はわかりやすさの観点から縦割りに見える整理が多くなりがちであり、横断的連携の表現とのバランスは難しい課題である。今後もブラッシュアップしていきたい。 横断的体制については、全庁的な調査を現在進めており、今後基本計画を策定する中で、課題に迅速に対応できる体制を作り上げていく。
9	全般 (記載感)	全体的な記載感について、思いは伝わるが文章が長くなりすぎて何を言いたいのが見えにくい。例えば、思いは集約して「こんな板橋区にしたい」というところと「だからこうする」というところを分けた表記にするのはどうか。	文章の表現については、重複感が感じるかもしれないが、それぞれの項目で重要なこともあり、審議会で細かく意見をいただき整理している。 伝わりやすさ・分かりやすさを重視しているが、長いと分かりにくくなる部分もあるので、本日のご意見を審議会にフィードバックする。
10	全般 (記載感)	「全世代が支え合う共生社会」や「多様な人々の交流」など、様々な分野で似たような表現が分散している。基本構想で組織横断的と言うのにそれぞれに分散しているのはもったいない。区民等の視点に立った統合的な視点による施策の記載が必要ではないか。	すべてのめざす姿に共通する状態が「将来像が実現されたまちの姿」である。基本構想はふんわりとした将来像・大きな構想であり、実際にどう施策等で取り組むかは基本計画で示していく。今後の計画の検討の中で、ご指摘いただいた視点の施策設定をめざしていく。
11	I 基本構想 基本理念	過去の基本構想では「男女平等」という文言が入っていたが、今回は「多様性」という言葉に置き換わっている。男女平等については多様性に括るべきでは無いと考えるが、この変化についてどのような議論があったのか。	審議会の検討では「より広く受け止める」という観点から「多様性」という文言になっている。庁内でも議論があり、今後のパブリックコメントや本日のご意見を審議会にフィードバックをする。

12	I 基本構想 基本理念	「ゆたかな環境を未来につなぐ」という項目について、「持続可能でにぎわいのあふれるまち」という表現が、過去の基本構想では「持続可能な」が何に係るのか明確だったが、今回はタイトルの環境・未来との関係性が分かりづらい。 過去の基本構想では緑を次世代につなぐという視点だったが、今回の「持続可能で」という言葉の使い方が異なっている。何に対して持続可能と言っているのか。 まちづくりでにぎわいを作るという表現に違和感がある。	緑を将来につなげていく時間的なつながりと、今あるまちの緑をそれぞれ関連させてつなげていくという意味で「つなぐ」という考え方を持っている。表現の仕方については審議会で一言一句細かく検討している。分かりにくいというご意見を最終答申に向けてフィードバックし、表現が分かりやすく伝わるよう整理していきたい。
13	I 基本構想 将来像が実現されたまちの姿	将来像が実現されたまちの姿の「つながりと愛着が育まれている」の中で「地域の課題解決に住民が主体的に参加できる仕組み」とあるが、具体的にはどのようなものか。	例えば、板橋駅の再開発では、駅前のあり方や運営等について区民の意見を聞きながら検討を進め、課題解決に向けて区民に主体的に動いていただくようなつながりの構築を目指している。こうした取組が全区的に広がり、「自分たちのまちを自分たちでつくる」という概念を深めていきたい。
14	I 基本構想 (3)9つのめざす姿 (子ども・若者)	「子ども・若者・子育て世代が住みたくなるまち」の中で「事業者・企業などの連携」とあるが、具体的にはどのようなものか。	具体的なものは本日示すことが出来ないが、必要性を認識している。今後、基本計画・実施計画・各種行政計画の中で必要な取組を検討し、示していきたい。
15	I 基本構想 (3)9つのめざす姿 (産業)	「戦後の成長を支えてきた光学精密機器産業や都内有数の印刷製本産業」について「持続的に発展しています」とあるが、印刷製本産業の現在と10年前、今後10年後の見通しについて区はどう考えているのか。	意見を後日所管課に確認し、審議会に報告して共有する。 産業経済部回答 印刷製本業は、10年前には既にデジタル化の波に直面し、紙媒体の需要減少が始まる中、一定の市場規模を維持していた。 現在ではさらにDX化が加速し、印刷物の需要は大幅に減少、事業所数も減少している。その中で、高付加価値サービスやデジタルコンテンツ制作との融合、特殊印刷技術の高度化などの事業拡大や差別化等といった経営努力をしている事業者が多く存在する。 今後10年の見通しとして、従来型の大量印刷ビジネスの縮小が見込まれるが、板橋区では異業種連携によるイノベーション創出支援やデジタル技術の導入支援などを通して、事業拡大や多角化など持続的な発展を支援するとともに、産業分野として絵本のまちの推進に事業者とともに取り組んでいく。

16	Ⅱ基本計画 施策のあり方 (福祉・介護)	10年後の基本構想として、人材不足という大きな課題に対する具体的なビジョンが見えない。特に福祉・介護分野では、「専門的なサービスを必要な人に提供できる」という目標が必要ではないか。	人材不足は懸念となる大きな課題と認識している。基本構想に盛り込んでいくのか基本計画に位置づけるかは、本日のご意見も含めて整理していきたい。
17	Ⅱ基本計画 施策のあり方 (産業)	産業の施策のあり方で「住環境と調和した操業環境の確保と安全で活力ある地域経済の構築」とあるが、この「住環境と調和した操業環境の確保」とはどういったイメージか。	騒音対策などの面もあるが、地域に受け入れられる産業の発展が必要であり、日頃のつながりも含めて産業と生活の融和が図れるようなイメージを含めて設定している。